

「令和6年能登半島地震」の地震活動

震央分布図

(2020年12月1日～2024年11月30日、
深さ0～30km、 $M \geq 3.0$)

震源のプロット

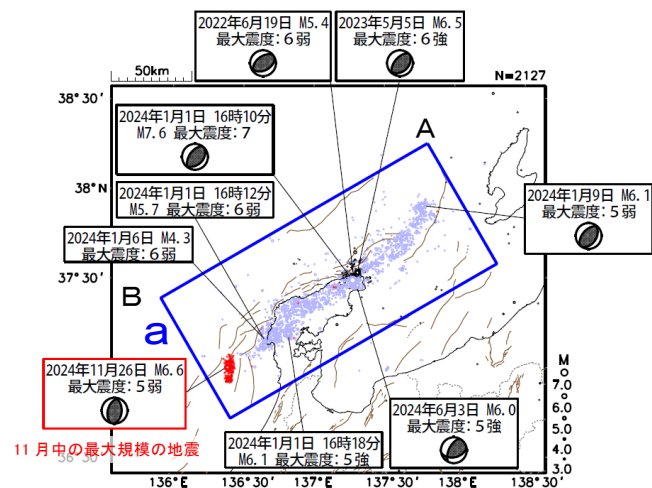
黒色 2020年12月1日～2023年12月31日

水色 2024年1月1日～10月31日

赤色 2024年11月1日～30日

吹き出しは最大震度6弱以上の地震、 $M6.0$ 以上の地震
及び10月中の最大規模の地震

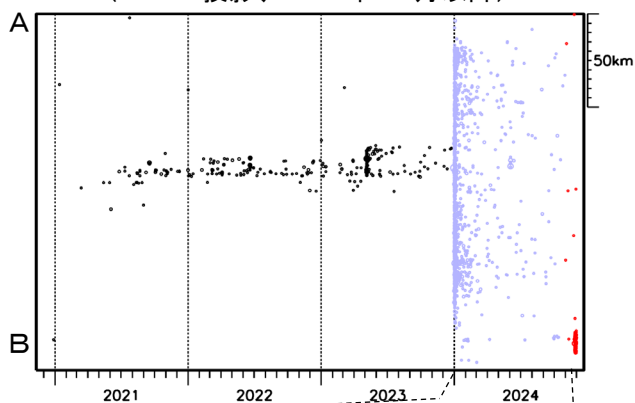
図中の発震機構はCMT解



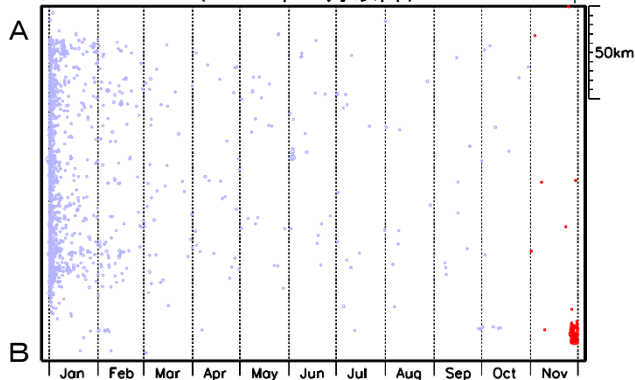
図中の茶色の線は、地震調査研究推進本部の
長期評価による活断層を示す。

領域 a 内の時空間分布図

(A-B投影、2020年12月以降)

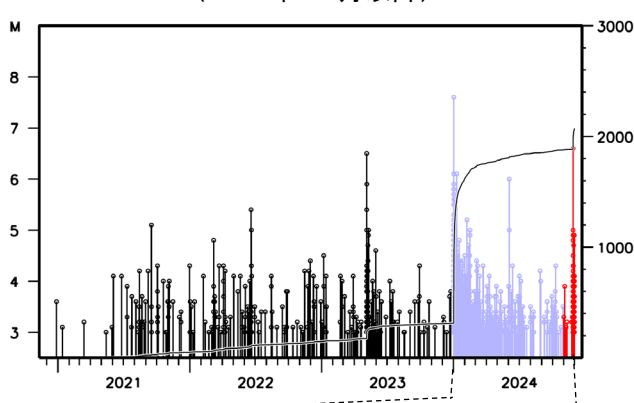


(2024年1月以降)

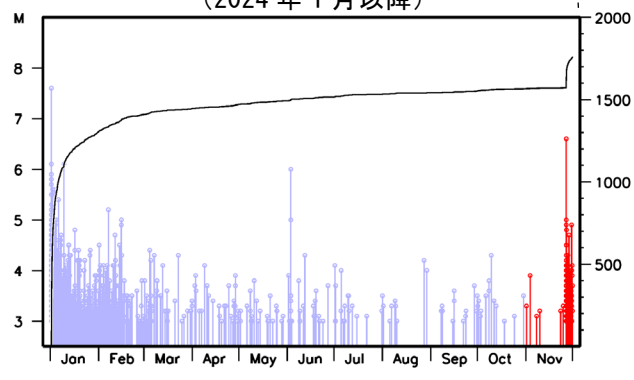


領域 a 内のM-T図及び回数積算図

(2020年12月以降)



(2024年1月以降)



能登半島では2020年12月から地震活動が活発になっており、2023年5月5日には $M6.5$ の地震（最大震度6強）が発生していた。2023年12月までの活動域は、能登半島北東部の概ね30km四方の範囲であった。

2024年1月1日16時10分に石川県能登地方の深さ16kmで $M7.6$ （最大震度7）の地震が発生した後、地震活動はさらに活発になり、活動域は、能登半島及びその北東側の海域を中心とする北東-南西に延びる150km程度の範囲に広がっている。

地震の発生数は増減を繰り返しながら大局的には緩やかに減少してきているが、2024年11月26日22時47分には石川県西方沖の深さ7kmで $M6.6$ の地震（最大震度5弱、長周期地震動階級2）が発生し、11月中に震度1以上を観測した地震が136回発生するなど活発な状態が続いている。

11月26日に発生した $M6.6$ の地震はこれまでの「令和6年能登半島地震」の地震活動の中で二番目に大きな規模の地震である。この地震の発震機構（CMT解）は東西方向に圧力軸を持つ逆断層型である。この地震により軽傷1人の被害が生じた（2024年11月27日08時00分現在、被害は石川県による）。この地震の震央付近では、11月28日に $M4.7$ の地震（最大震度4）が発生するなど、活発な地震活動が継続しており、11月26日から30日までに震度1以上を観測した地震が123回発生した。